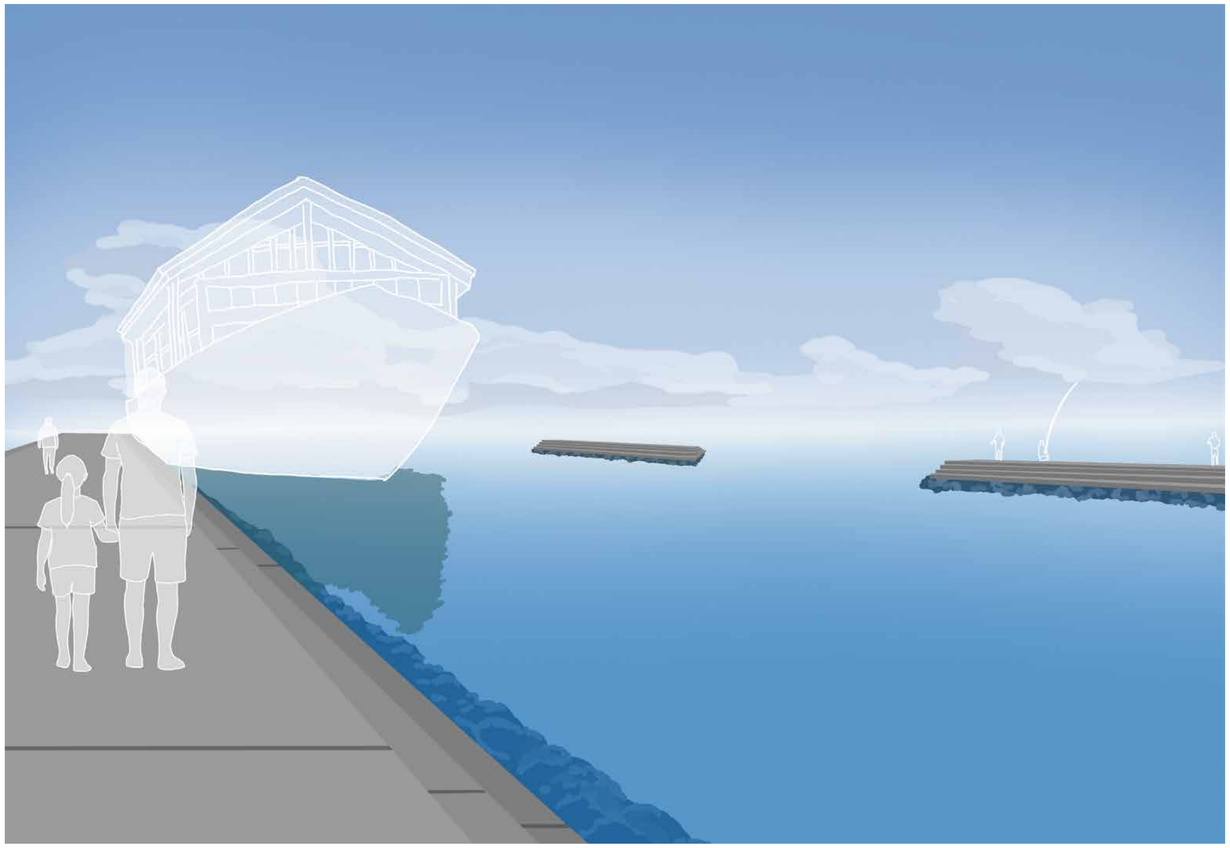


▲北前船の航路に沿ってやってくるクルーズ船

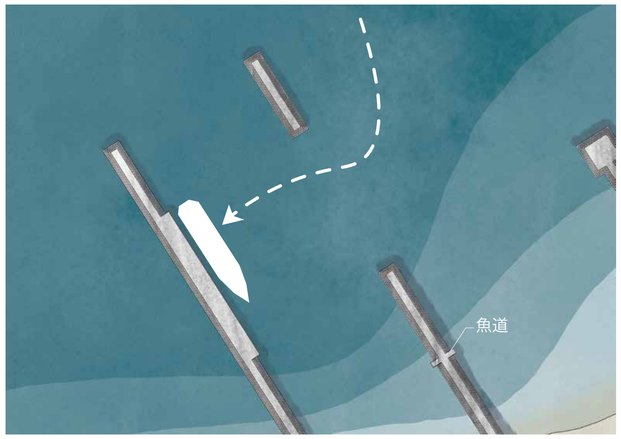
▲高台から海岸を一望する

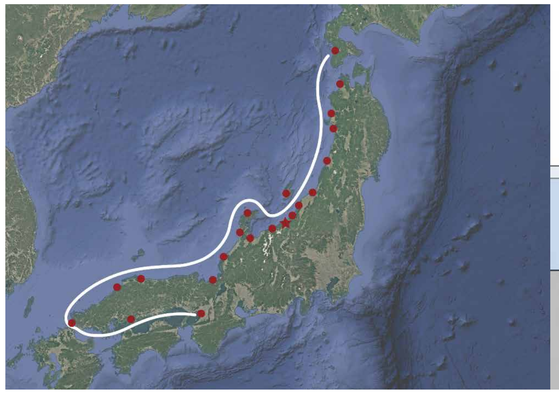
北前船が繋いだ交流の再興

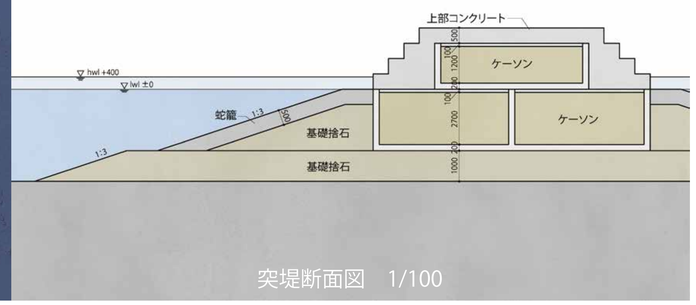
01. 波止場

直江津を含めたかつての北前船の寄港を結ぶ航路と、その町々の連携したまちづくりのために、「波止場」を整備する。それぞれの港町ごとに、日本海の魅力と、北前船の運んだ文化や産物の魅力を伝えることのできる枠組みを構想する。

海からやってくる人々の存在や、海から見た直江津の景観は、かつては当たり前のものであり、これを復活させ、海と人の繋がりを取り戻すためのきっかけにしたい。







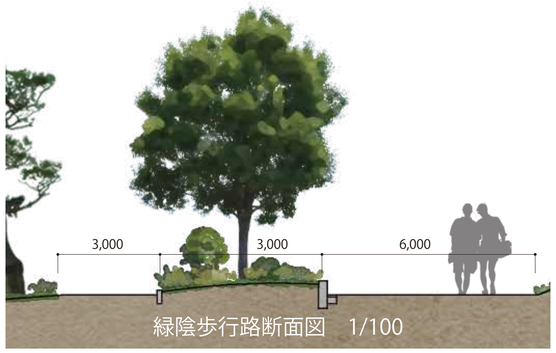
突堤断面図　1/100

海と向き合う町

02. 防災公園 / 03. 民宿通り

海抜の低い地域で、目立つ高台は、景観的にも防災的にも、この対象地において重要な場所である。

今回はこの高台に「民宿街」を計画する。避難施設として、平時からの利用と寝食の設備などが整っていることが望ましい。そこで、まだ比較的多く残る町屋的な住宅を「波止場」や内陸の町から訪れる人々に向けた宿とすることで、防災だけでなく、対象地における、海と関わる生業を生み出すことになると考える。



緑陰歩行路断面図　1/100

緑陰歩行路・駐車場

町中では、住戸の誘導と動線の整備を行う。人口減少、自動車中心の生活への転換を経て、町並みはかつての表情を失っている。

区画の内側に、駐車や緑を集約することで、動線における密度の上昇を目指す。また、海へ垂直な動線の一部とかつての主要動線を関係車両以外の自動車の侵入を禁止し、歩行専用道路として整備し、直江津が有していた、海への正面性と海へのアクセスの用意さをとり戻したい。